



第133回 日本美容外科学会

スポンサードセミナー11

ペプチド複合体含有ヒアルロン酸製剤を用いた注入治療の新しい可能性

5.29 2025
THU

09:45 ▶ 10:45

第4会場

The Okura Tokyo 7F メイプル



座長

田中 亜希子 先生
(あきこクリニック 院長)



演者

岩城 佳津美 先生
(いわきクリニックIC 院長)

CREATIO

共催: 第113回日本美容外科学会 / クレシオ株式会社

※ 本講演には、薬事未承認の内容を含みます。

｜ スポンサーードセミナー11

ペプチド複合体含有ヒアルロン酸製剤を用いた注入治療の新しい可能性

演者 岩城 佳津美 先生
いわきクリニックIC 院長

CG Styler600は、PEGDEで架橋されたヒアルロン酸(10mg/mL)に機能性ペプチド複合体を含有したハイブリッド製剤である。低濃度ながら粘弾性に優れたヒアルロン酸は、組織への馴染みが良く、どのような表情においても不自然な形状を呈することなく、かつ適度なボリュームを回復することができる。また、吸水性が低いため、浅層への注入においてもチンダル現象や浮腫が起こりにくい。含有されているペプチド複合体CG-PTxは、C型ボツリヌス毒素様効果を有し皮膚のリラックス効果が得られるが、ボツリヌストキシンのような強力な作用ではないため、どこに注入しても不自然な表情になるリスクはない。また、注入数週間後から皮膚のコラーゲン・エラスチン・フィブロネクチンが増生し、さらなるシワ・肌の質感改善効果が得られる。

もう一つのペプチド複合体オクタペプチド-11は、ヒアルロン酸の分解遅延作用を有し、ヒアルロン酸の効果をより延長することが期待できる。演者はCG Styler600を3年前から使用開始し、すでに800本以上の使用経験があるが、従来のヒアルロン酸製剤とは注入概念や注入テクニックが異なる製剤である。細部のシワから、フルフェイスの若返り治療、表情ジワの治療まで非常に幅広い適応があり、今では注入治療において欠かせない製剤となっている。また、従来ヒアルロン酸は禁忌である目元(ear trough)にも、注入法を工夫することによって使用することができる。

今回、CG Styler600を使用した症例と注入テクニックを、動画で提示しながら解説する。

｜ 経歴

1995年 大阪医科大学医学部 卒業
1995年 京都大学医学部附属病院 麻酔科研修医
1997年 済生会中津病院形成外科 専修医
1998年 城北病院(京都市:現 北山武田病院)形成外科・美容皮膚科 常勤医
2003年 京都府長岡京市にて「いわきクリニック形成外科・皮フ科」開業
2022年 「いわきクリニックIC」開業

｜ 所属学会

日本形成外科学会 / 日本皮膚科学会 / 日本美容外科学会 / 日本臨床皮膚外科学会 / 日本美容皮膚科学会
日本医学脱毛学会 / アメリカレーザー学会 / 日本臨床形成美容外科医会 / 日本抗加齢美容医療学会(理事)

CREATIO

共催: 第113回日本美容外科学会 / クレシオ株式会社

※ 本講演には、薬事未承認の内容を含みます。